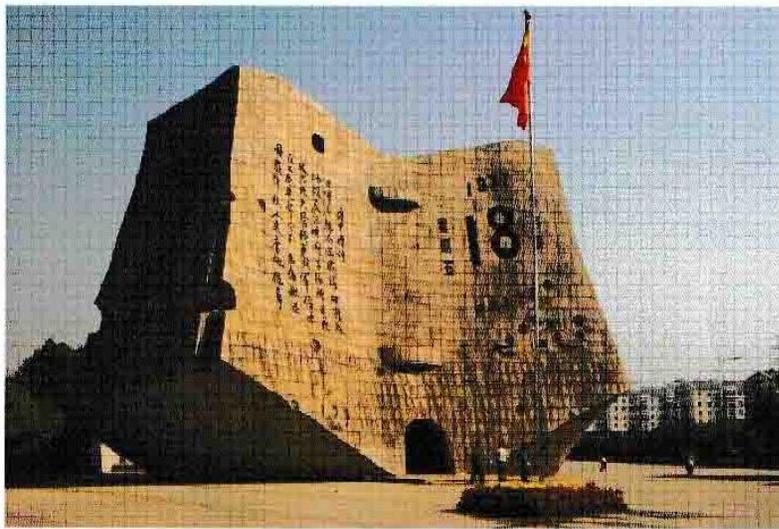


日中不再戦と友好のきずな

日中友好協会倉敷支部 15年のあゆみ



日中友好協会倉敷支部

日本中国友好協会倉敷支部の15年にのぼる歩みを綴った記念史『日中不再戦と友好のきずな』の発行を心からお祝い申し上げますとともに、日中友好運動の発展のためにたゆまぬ奮闘を続けてこられた倉敷支部の皆さまの活動に心からの敬意を表します。

1972年の日中国交正常化から50年を経たいま、コロナ禍に加え、中国をめぐる情勢も厳しさを増し、日本国民の対中感情がかつてなく悪化している中で、協会は懸命な努力を続けています。全国の仲間が心をひとつにして運動の展望を切り開いていくことが求められる今、岡山支部と連携して井笠支部準備会と岡山県連合会結成を具体化してきた倉敷支部の活動は、全国の仲間を大いに励ましています。日中関係が厳しい状況にあるからこそ、日中友好の心情を広げる協会の運動への期待が国民の間に高まっています。日中国交正常化50周年の歴史的な節目にあたっての記念史の発行ならびに岡山県連合会と井笠支部準備会の結成が、岡山県における日中友好運動の飛躍的な発展につなげられることを期待してやみません。重ねまして、倉敷支部の皆さまのご奮闘に心から感謝申し上げます、お祝いのメッセージといたします。

日本中国友好協会
会長 井上 久士

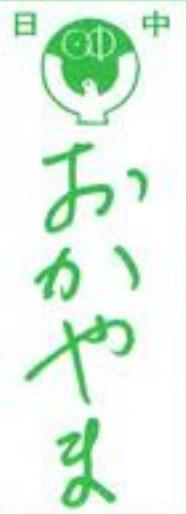
発刊に当たっての挨拶

日中友好協会倉敷支部 理事長 宇野忠義

「倉敷支部の15年のあゆみ」はずしりと重い。豊富で多彩な文化活動が十分には盛り込めなかったが、歴史と伝統を伝える確かな証言となろう。

古くは717年、遣唐使吉備真備の留学先長安（現西安市長安区）の親善訪問記録、戦後では、中国革命戦争を生き抜いた看護婦栗本さんの記録、日中友好協会初代理事長内山完造さんを迎えての講演会記録、日中国交回復以前の水島協同病院院長の中国訪問記録、中国残留婦人と支援の記録など歴史に残る貴重な活動が掲載されている。

日中国交回復50周年の節目に当たり、中国の脅威を煽るかのようなマスメディアの偏った報道が影響し、対中感情の悪化が見られますが、両国の友好交流関係が重要であることは、共通認識となっています。文化的には最も近い国でもあります。憲法9条の不再戦・平和を基軸として、日中相互の理解、交流がますます発展する礎となる記念誌を祝いたいと思います。



題字 平原田 親

No. 968

2022/3/1

日中友好新聞

発行所
日本中国友好協会
〒111-0953
東京都千代田区浅草橋2-2-3
日中ビル5F
電話 03(5839)2149(TEL)
FAX 03(5839)2141
http://www.jcfp.or.jp
E-mail:okch@jcfp.or.jp
社印 00119-1-21178

日中友好協会
岡山支部
〒719-0034
岡山市北区下伊福
西町1-59 民主会館1F
TEL/FAX 0861 258-1806

日中友好協会
倉敷支部
〒713-8031
倉敷市福河町東22461-45
TEL/FAX 0861 411-7800

日中友好協会岡山支部ホームページ
<http://rizhongyouhao.jinaa.net/>
メールアドレス
nicchukayama@yahoo.co.jp



— 日本中国友好協会第70回大会期 — 第1回理事会開催

岡山県選出全国理事 犬飼繁

表記の会が2月5日(土)、10:00~17:00(12:00~13:00 は昼食休憩)まで、日中本部と各支部をオンラインで結んで開催されました。

最初、松尾理事長から開会のあいさつがあり、その後議長選出に移り、松尾理事長の提案で本部の太田副理事長と理事の2名が議長に選出されました。つづいて井上会長から、「春節を迎え、北京オリンピックも始まりましたが、オミクロン株の急激な感染拡大の影響もあり、オンラインでの開催となりました。面と向かった会議ができないのは大変残念ではありますが、コロナの感染がおさまったら、リアルの会議もやりたいと思います。日本人の対中感情が悪化する中で、日中不再戦・帰国者支援・中国百科検定などの活動に取り組みながら、日中友好運動が困難な時だからこそ、本当の日中友好団体の存在の意義を示していきましょう。仲良く元気に活動していきましょう。」と挨拶がありました。

次に矢崎事務局長から「本日の出席は50名で、委任状の16名を加えると66名の参加となり、109名の過半数を超えて、理事会として成立しました。」という報告がありました。

10:15~10:25には矢崎事務局長から①活動日誌②財政③第71回大会の報告があり、10:25~10:55まで矢崎事務局長から「活動のまとめ・進め方と日中友好運動をめぐる情勢」と題して提案がありました。矢崎事務局長は「今年は日中国交回復50周年にあたり、今一度1972年の日中共同声明の精神を確認する必要がある。」として、その中身に触れ、「日本は過去において戦争を通じて中国国民に重大な損害を与えたことへの責任を痛感し、深く反省する。日中両政府は平和五原則の上に恒久的な平和友好関係を確立することに合意する。両政府は国連憲章の原則に基づきすべての紛争を平和的手段により解決し、武力又は武力による威嚇に訴えないことを確認する。」と具体的な内容を指摘されました。また、9月には50周年の記念シンポジウムが予定されており、そこへ向けて「不再戦平和の理念」「反戦平和と日中友好」「日中両国民の交流」「憲法改悪を許さない全国署名」などに取り組む決意を表明されました。



井上会長



左 矢崎事務局長

右 太田副理事長

矢崎事務局長から「岡山県支部連合会結成に向けて動いている岡山からは是非報告を」と要請があり、私から「岡山では岡山支部と倉敷支部で3年ほど前から支部連合会結成に向けて取り組みをしており、直近では1月19日に第16回の打ち合わせを倉敷公民館で、岡山支部の真田支部長、河井理事長、小林事務局長と倉敷支部の宇野理事長、大本副理事長と私の6名で、3月20日の結成総会の流れや役割分担を話し合ったこと、現在役員体制や規約について最後の詰めを行っていること」などを報告しました。

また、「この動きと並行しながら、内山完造さんの出身地である井原市を中心に笠岡市や里庄町、浅口市や矢掛町などを加えた地域に新しい支部を作ろうと、準備会を進めてきています。昨年9月17日に第1回、12月3日に第2回、今年1月28日に第3回の準備会を実施しました。支部の名称は井笠支部がよいだらうという話になり、地元の市議員や町議員の方など数名の方が参加して、新支部結成に向けて活動を始めています。近く井笠支部結成準備委員会のメンバーを決定したいと考えています。」という報告をしたところです。

次回の新聞発送作業は
2月14日(月)午前10時半から
民主会館2階で行います。
前回お手伝いくださった方で

池田
犬飼
小林
坪井